

Go Beyond～今の自分を超えてゆけ！～

# 校長漫筆記

令和8年5月8日  
姫路市立高校  
校長通信 第5号  
文責 平山智樹

## 『自立』の芽吹きと、一生モノの力

5月8日、新年度の生徒会役員選挙が行われます。活気づく生徒たちの姿に、私は今、ある「驚き」を感じています。



長く小学校現場にいた私にとって、小学校の児童会は教員が細かくお膳立てをするのが常でした。しかし、本校の生徒会活動は驚くほど自立しています。例えば、6月の文化祭。企画立案から予算の折衝、外部業者との交渉まで、生徒たちの手で完結せると聞きました。

また先日、生徒会役員が「1期生に早く学校生活に慣れてほしい」と、学校紹介ビデオの制作に奮闘する姿を耳にしました。実際にそのビデオを視聴させてもらった際、その完成度と熱意に「ここまで任せられるのか！」と、心地よい衝撃を受けたのです。

こうした活動には、単なる思い出作りを超えた三つの意義があると考えます。

一つ目は、「正解のない問い」に挑む力。仲間と議論し、納得解を導き出す経験は、社会で最も必要なスキルとなります。二つ目は、自分を知る「実験場」であること。リーダーとして率いるのが得意か、事務方として支えるのが性分に合っているか。活動を通じて自分の強みや役割を客観的に把握し、やり遂げた経験は、自己肯定感へと繋がります。三つ目は、「小さな社会」の体験。ルール作りや多様な価値観との接触は、主権者として生きるための最高のシミュレーションです。

昨今の大学入試においても、こうした活動実績が評価される機会は増えています。しかし、私が思う意義は評価のためではなく「自分をアップデートし、社会との繋がりを学ぶこと」にあります。たとえ失敗や葛藤があったとしても、それこそが将来の自分を支える強力な糧になるのです。

これは生徒会だけでなく、部活動や委員会など、すべての生徒活動にあてはまります。自らの意志で動き、試行錯誤して得られた「目に見えない力」は、卒業後の人生において、どんな知識よりも生徒一人ひとりを助けてくれるはずです。

新役員を中心に、新たな学校が持つ挑戦心と、伝統ある学校が守ってきた誇り。その二つが混ざり合い、醸し出される今の「熱気」と、これからのさらなる飛躍を心から楽しみにしています。